

合理的配慮のヒント④ 「交流及び共同学習」における「合理的配慮」

「交流及び共同学習」を進めるに当たっては、事前に、参加する児童生徒等の障害の状態や環境整備の状況等を踏まえ、「合理的配慮」について決定し、関係者の間で共通理解を図っておくことが必要です。

【障害に応じた配慮例】

「交流及び共同学習ガイド」(文部科学省)を参考に作成

障害種別	主な配慮の例
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> □ 教材等を提示する場合、言葉での説明を添えるとともに、手で触って観察できるようにする。「そこ」「あそこ」などの指示代名詞は避け、具体的に指示する。 □ 慣れない場所に行ったり、初めて体験したりする時には、最初に周囲の状況や活動内容を説明したり、一緒に歩きながら案内したりする。 □ 文字カード等を提示する際にはコントラストをはっきりさせ、文字を大きく書くとともに、照明等に配慮して見やすくする。
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> □ 子どもが話し手の方を向いている時に、話し手は自分の顔全体、特に口元がはっきりと見えるようにして話しかける。 □ 話が通じにくい場合には、手のひらに指で文字を書いたり、空書したり、紙に書いたりして確認する。必要があれば指文字や手話を活用する。 □ できるだけ板書や実物など視覚的な手がかりを利用して活動の流れを伝える。
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> □ 言葉による指示だけでなく、絵や写真等を用いたり、モデルを示したりすることによって活動内容を理解しやすくする。 □ 繰り返してできる活動にしたり、活動の手順を少なくしたり、絵や写真等を用いて手順が分かりやすくなるようにしたりして、見通しをもちやすくする。 □ 子どもの行動の意味や背景等を必要に応じて適切に説明するなどして、子ども同士が理解し合えるようにする。
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> □ 車いすや杖等を使用する子どもが、階段や段差のあるところで困っている場合には、どうしたらよいかを尋ね、それぞれの子どもに合った方法で援助する。また、必要に応じて周囲の人たちの協力を求め、安全な方法で介助するようにする。 □ 車いすを押す場合にはゆっくり押すように心がける。前方に段差や坂道がないかを確認、急な下り坂では後ろ向きに進むなど状況に応じた安全な押し方をする。 □ 話をする時は、子どもの目の高さに合わせてるように努め、気持ちを伝える。
病弱	<ul style="list-style-type: none"> □ 活動に当たっては、保護者、担当医、教師の間で個々の子どもの病状や活動する際の注意事項を確認する。 □ てんかんや気管支ぜん息等の子どもは、発作等がない時には他の子どもと同程度の活動が可能な場合があるが、その際にも過重な負担にならないように留意する。 □ 病気によっては急に不調になることもあるので、活動中も体調の変化に十分注意するとともに、個々の病状や体力に応じた活動を工夫する。
言語障害	<ul style="list-style-type: none"> □ 子どもにとっては、話すことが苦にならない楽しい雰囲気大切であり、温かく、思いやりのある好ましい人間関係を保つことができる環境づくりに心掛ける。 □ ゆっくりと話すように努め、子どもの話に対しては笑顔でうなずいたり、はっきりと返事をしたりして、子どもが話し終わるまで丁寧に聞くようにする。 □ 吃音の子どもに対しては、急いで話したり言い直したりすることを求めず、また、話の途中で口を差しはさまないようにする。
自閉症・情緒障害	<ul style="list-style-type: none"> □ 見通しがもてるように、計画された活動内容を、簡潔な言葉や動画、写真等の視覚的な情報を利用して事前に知らせる。また、急激な変化を苦手とする場合が多いことから、計画された活動を急に変更することがないようにする。 □ 集団活動に参加することが苦手な子どもが多いことから、少人数による活動から徐々に人数を増やしたり、子ども同士の相性を考慮したりするなど工夫する。 □ 聴覚や視覚、触覚等に強い過敏性が見られる場合もあることから、騒がしい場所や蛍光灯の光、人との接触等について、必要に応じて調整する。
(LD) 学習障害	<ul style="list-style-type: none"> □ 得意な能力を生かした活動ができるように工夫する。苦手な活動に対しては、周囲の理解を図るとともに、できる限り自分の力でできるような支援の手立てを工夫する。 □ 具体的に簡潔な言葉で話すとともに、実物やVTR、写真、絵カード等を用いて視覚的な情報を提供する。 □ 文字を示す時には、読みやすい大きな文字を使うようにする。不必要な文字は黒板から消すなどして、必要な情報を精選して提示する。
(ADHD) 注意欠陥多動性障害	<ul style="list-style-type: none"> □ 聞き落としや見落としをしないように、教師に注目していることを確認してから話したり見せたりする。また、一度に多くのことを伝えようとしないで、一つのことを簡潔に伝えるようにする。 □ 一つ一つの活動を短く区切るとともに、一つの活動が終わった時には、次に行うことが明確に分かっているようにする。 □ 忘れても思い出せるように、指示内容は簡潔に書いて提示する。